

令和4年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」
兵庫大学・兵庫大学短期大学部 事例紹介

兵庫大学・兵庫大学短期大学部における 障がい学生支援体制構築の取り組み



兵庫大学・兵庫大学短期大学部
障がい学生支援オフィス 剣物 和弘

障がい学生支援担当部署 設立までの動き

2019(R元)年度以前

教員や学科ごとに対応
健康管理センターを中心に全学的な対応ための準備段階

2019(R元)年度

障がい学生の対応に対する基本方針に関するワーキンググループの設置

- ・兵庫大学・兵庫大学短期大学部の「障がい学生支援」に関する基本原則の検討
- ・兵庫大学・兵庫大学短期大学部 障がい学生支援のガイドライン策定（HPに掲載）
- ・支援担当部署の設置や対応方法についての検討
- ・教職員研修
「大学に求められる障害のある学生への支援」
京都大学 村田准教授

2020(R2)年度

「障がい学生支援担当部署」準備委員会の設置

- ・「支援担当部署」の体制整備の検討
役割、組織、業務、支援の流れ、人員配置 など
- ・障がい学生支援に関する全学的調整についての審議
- ・教職員研修
「障がい学生支援部署立ち上げに関して教職員がなすべきこと」
京都大学 村田准教授

至急の『障がい学生支援部署』立ち上げの必要性を感じていますか？

はい 100%

● 大学として合理的配慮の強化

- ・ 大学としての方向性の統一
- ・ 合理的配慮を求める障がい学生の増加に対して、合理的配慮の不提供の抑止
- ・ 私立大学は「努力義務」から「義務」になるにあたり、早めに体制整備

● 障がい学生数の増加

- ・ 毎年のように支援を要する学生も入学しているから
- ・ 顕在するあるいは潜在する学生がいるから

● 教員の負担軽減

- ・ 障がい学生に対する対応について、独りで悩まず相談できる
- ・ 現状では合理的配慮についての判断を学科が行うため、学科長や担任などへの負担の偏りが大きい
- ・ チューター生等、授業中やレポート作成、実習で本人が困っている

2020年度 健康管理センター講演会

「障がい学生支援部署立ち上げに関して教職員がなすべきこと」

村田 淳 准教授 京都大学学生総合支援センター(現学生総合支援機構)

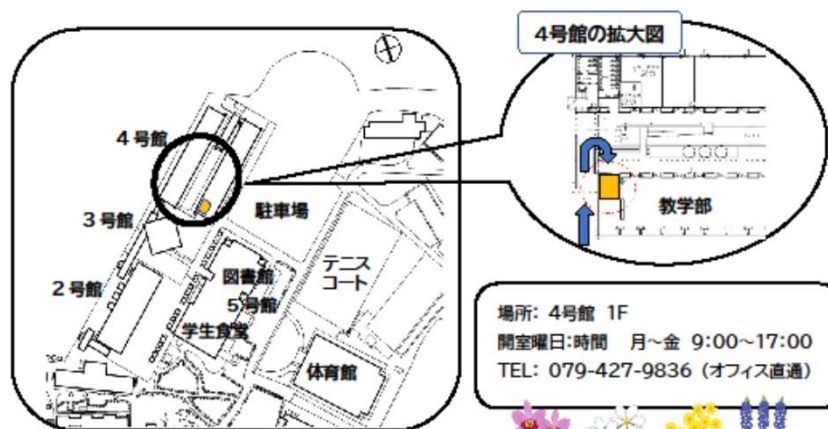
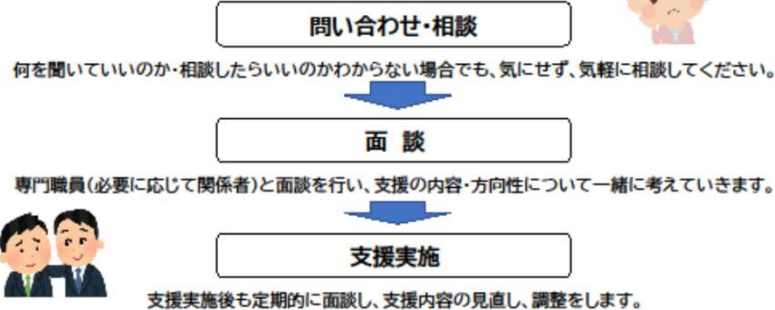
アンケート結果より

令和3年4月より

障がい学生支援オフィス開設

令和3年4月から、本学において障がい学生支援オフィスが開設されました。見えにくさや聞こえにくさ、移動の困難さ、コミュニケーションのしづらさ、修学のスケジュールを立てるのが苦手など、何らかの障害や病気、特性のある学生が学びやすいように、学内の関係部署と連携しながら、修学環境を全学的に整えていくための総合窓口です。また、学外の関係機関とも連携しながら、修学の支援をしていきます。

【利用の流れ】



場所: 4号館 1F
開室曜日: 時間 月~金 9:00~17:00
TEL: 079-427-9836 (オフィス直通)



〈主な相談・支援内容例〉

- ・修学上における相談・支援
- ・授業支援について、担当教員等との連携（録音、写真撮影、PC・タブレット・スマホによる筆記、オンライン授業の録画、座席の配慮）
- ・定期試験等での支援
- ・卒業後の進路における相談・支援
- ・外部機関との連携（医療・福祉・就労機関等との連携）
- ・介助者等の支援者派遣

障がい学生支援オフィス 設立年の主な動き（日々の支援等を除く）

2021(R3)年度

- 4月
 - ・支援体制検討会議の開催
 - ・学生サポーター（有償ボランティアによる生活介助）を組織化
 - ・学科長会議にて、障がい学生支援オフィスの概要説明と協力依頼
 - ・様式の作成（サポート依頼、支援機器借用願い、学生サポーター登録用紙など）
 - ・学科との情報交換 ※
 - ・関係機関との連携 ※

- 5月
 - ・兵庫大学・兵庫大学短期大学部 合理的配慮提供の実施基準策定（HP掲載）
 - ・障がい学生支援オフィス活動予算策定
 - ・重度訪問介護利用者等大学修学支援事業申請
 - ・全国高等教育障害学生支援協議会、全国障害学生支援センター入会

- 6月
 - ・支援機器購入 ※

- 8月
 - ・学生サポーター養成研修（身体障害・難聴）の実施

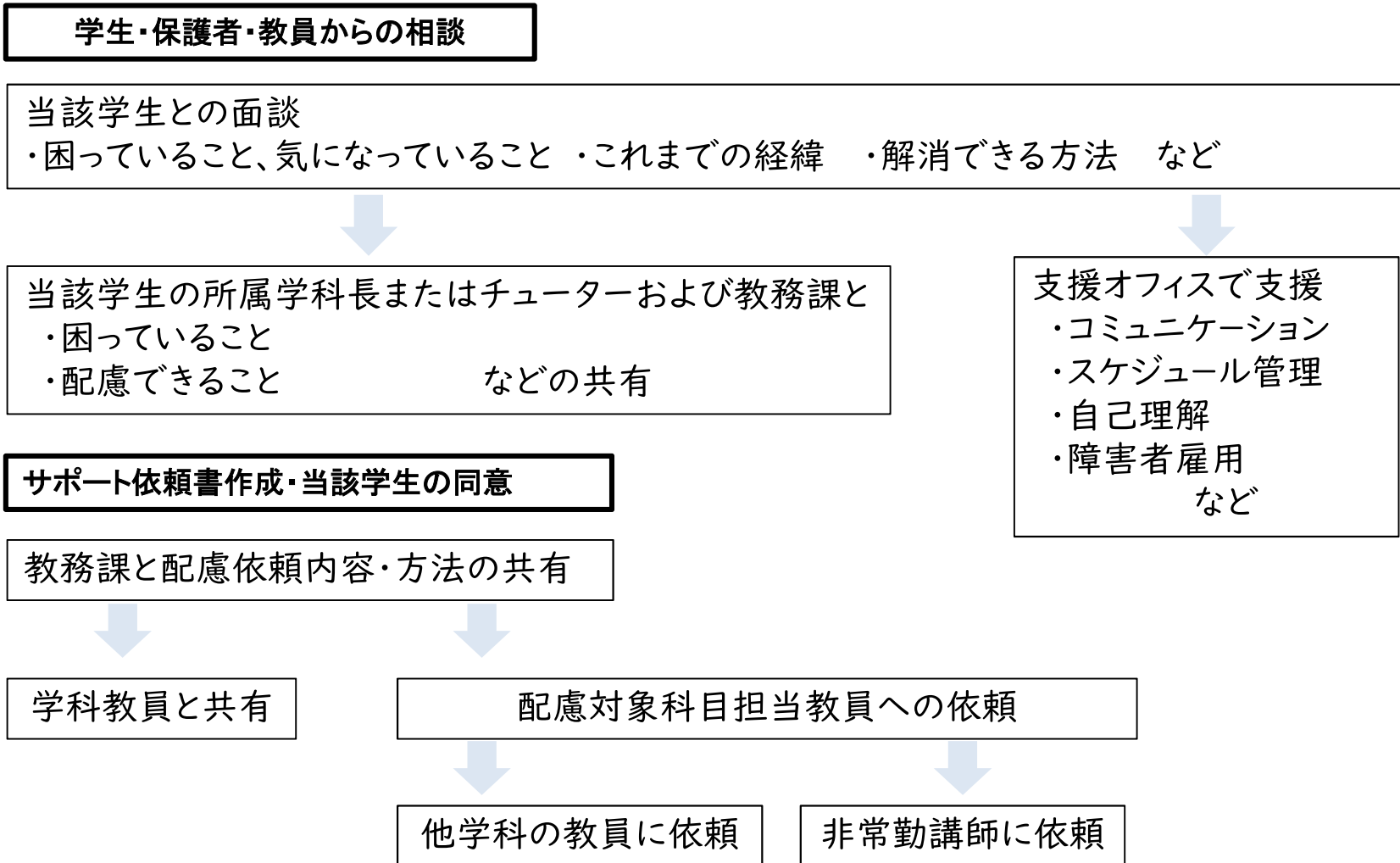
※ 以後、継続的に実施

障がい学生支援オフィス 設立年の主な動き（日々の支援等を除く）

2021(R3)年度

- 9月
 - ・オフィス会議の開催（活動の報告、様式の確認など）
 - ・学生対象に合理的配慮や障がい理解についての授業 ※
- 10月
 - ・教育懇談会対応
- 12月
 - ・オフィス会議開催（困難事例の対応）
- 1月
 - ・障がい学生支援オフィスに関するアンケート調査の実施（学生・教職員）
- 3月
 - ・障害者雇用相談会の実施
 - ・教職員対象に研修会の実施
「障がい学生支援オフィスの取り組みと学生の現状」
 - ・オフィス会議の開催（2021年度の活動報告など）

【授業における支援依頼の流れに関するフローチャート】



学生・教職員からの相談で多いもの

- 履修のしかたがわかりません。○○がわかりません。
→ 教務課・学生支援課と一緒に（来てもらって）、教えてもらいます。
- コミュニケーションやスケジュールを立てるのが苦手です。
→ 具体的な方法を一緒に考え、提案します。
- 聞こえにくい・いろいろな音を拾うので、先生の声が聞き取りにくいです。
→ ノイズキャンセリングや先生の声を通して文字化する機器を貸し出します。
→ テスト時の別室対応
→ **まわりの学生の協力・支援も仰ぎます。**
→ 課題や重要ポイントは板書、プリント等、文字情報で伝える。
- 字を書くのが負担です。
→ 学科の先生と拡大プリントやPC入力を一緒に考えます。
→ テスト時の時間延長をします。
- 学内の実習での対応に苦慮しています。
→ 学科の先生と一緒に考え、**まわりの学生の協力・支援も仰ぎます。**
- 学外の実習受け入れ先に苦慮しています。
→ 特性を踏まえて、配慮してくれる受け入れ先を紹介します。
- 一緒に相談したいのですが、**障がい支援オフィス**をどう説明すればよいですか。
- 手帳も診断もなくてもそうだんできるのですか。
→ 手帳や診断が必要なのは、合理的配慮の提供の時です。相談はだれでも大丈夫です。
→ **いろいろな方法を知っている。いろいろな関係機関とつながっている人がいる。**と紹介してもらっています。**相談の場所もオフィス以外でも大丈夫です。**

次頁参照

障がい学生支援オフィスでの支援

- 履修登録がわからない。
- 休講や教室変更等がありどうしてよいかわからない。
- 午前中の授業に出席できない。
- スケジュールを立てるのが苦手な課題が出せない。
- テストやレポートの優先順位がつけられない。
- 提出課題やテストでケアレスミスが多い。
- 同時処理が苦手な板書をノートに写していると授業についていけなくなる。
- 実験や実習で他のメンバーとトラブルが起きやすい。
- 不器用で実験や実習がうまくできず危険である。
- 友だちづくりがわからない。
- 誰に相談したらいいかわからず相談できない。
- ディスカッションがうまくできない。
- 面接が苦手。
- エントリーシート(特に長所)が書けない。

支援オフィス 2021(R3)年度活動報告

○相談・面談回数

学生・保護者274回

教職員117回

○相談を受けた学生数 50名（うち2名は来年度入学生）

診断名・障害名 身体障害、発達障害（ASD・ADHD）、病弱、高次脳能機能障害、
強迫性障害、難聴、APD、HSP、精神障害、社会適応障害、
LGBTQ、その他

○支援オフィス主催活動

- ・学生サポーター養成研修（令和3年8月31日 身体障害者の介助
9月4日 難聴について）

参加学生数 延べ83名

- ・障害者雇用相談会（令和4年3月4日）
参加者数 学生7名 教職員12名

○障害に関する以外の相談内容

若者(ヤング)ケアラー、実習受け入れ先、研究調査先、特別支援教育に関する進路、放課後等デイサービス事業所紹介、その他

○学外連携機関

福祉・相談機関：**ひょうご発達支援センター**、加古川市立こども療育センター、**各市町基幹相談支援センター**、各市町福祉行政、2市2町自立支援協議会、相談支援事業所、ヘルパー事業所、放課後等デイサービス事業所、**地域包括支援センター**

労働機関：**県障害者職業センター**、**就労・生活支援センター**、ハローワーク、**就労移行支援事業所**、**若者サポートステーション**

教育機関：**学生の出身高校**、各市町教育委員会、保育園、幼稚園
大学間のネットワーク、**他大学**

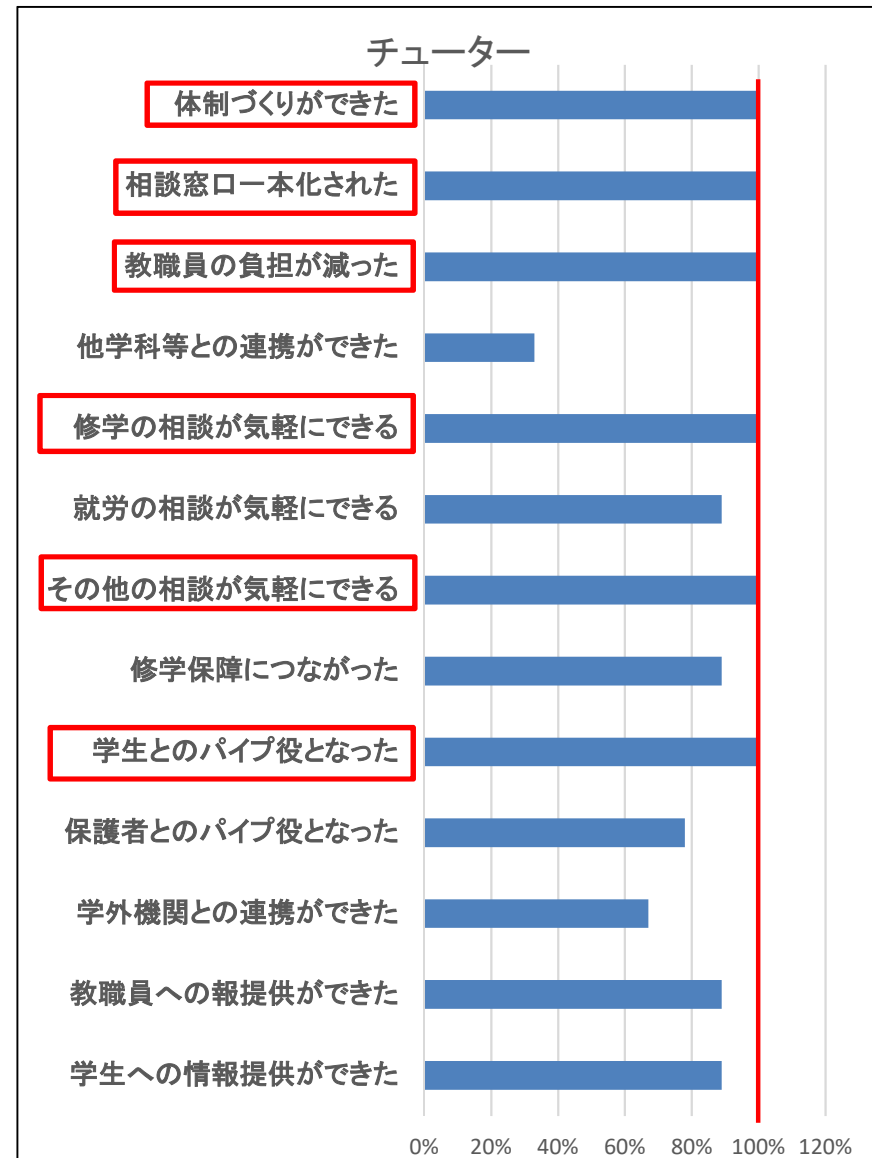
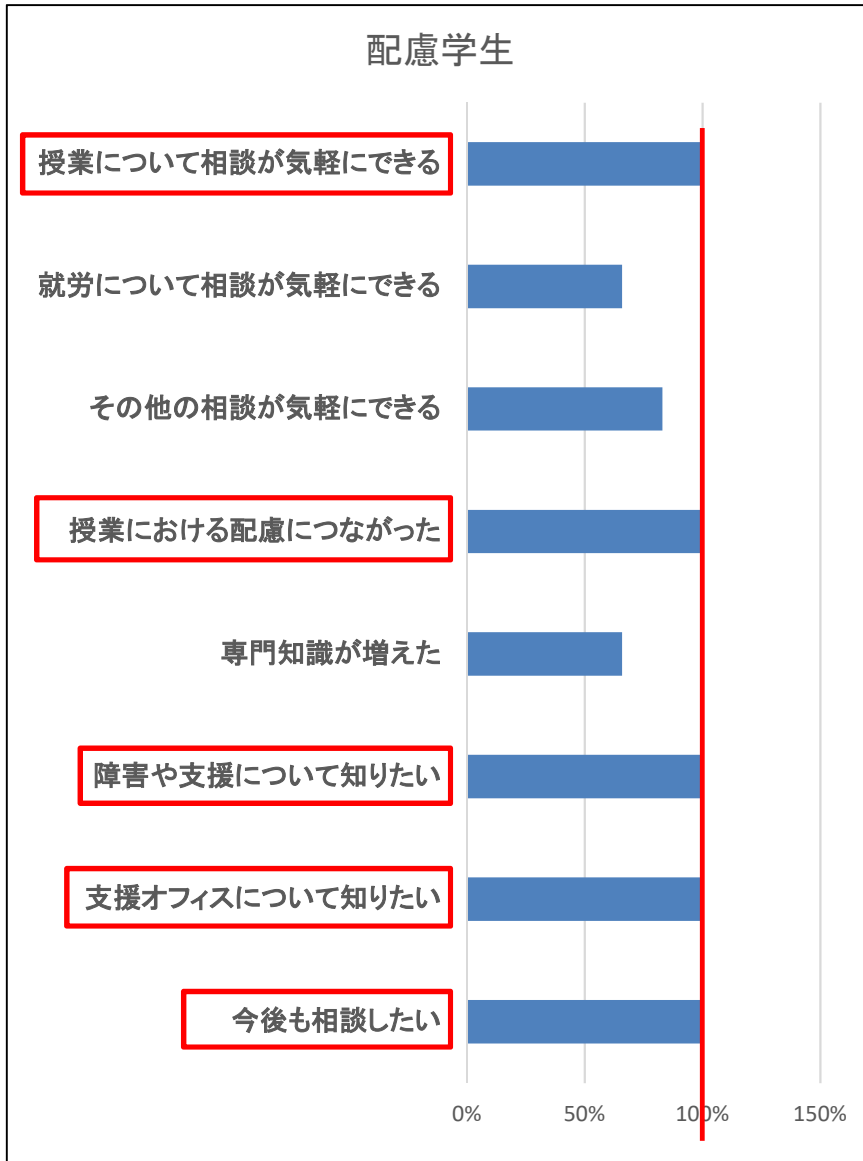
支援機器一覧表

	名前	簡易スロープ
	対象	身体障害
	個数	1
	保管場所	12号館2階渡り廊下付近
	備考	長さ175cm 幅70cm 耐荷重300kg
	名前	簡易スロープ
	対象	身体障害
	個数	1
	保管場所	入学課
	備考	アルミ2折式タイプ 長さ122cm 幅76cm 耐荷重300kg
	名前	カットアウトテーブル
	対象	身体障害
	個数	1
	保管場所	支援オフィス
	備考	車いすのままでも学習時に使用。 折り畳み式、キャスター付き
	名前	トランスポートチェア
	対象	身体障害
	個数	2
	保管場所	健康管理センター・学生
	備考	エレベーターなどの狭いスペースでも 運べるチェアタイプの担架
	名前	デジタル耳栓
	対象	難聴・発達障害
	個数	2
	保管場所	支援オフィス
	備考	*騒音は消えて、必要な声は聞こえる* 新しいタイプの耳せん。

	名前	ロジャータッチスクリーンマイク
	対象	聴覚障害・発達障害
	個数	1
	保管場所	支援オフィス
	備考	ワイヤレスマイクで拾った音声をデジタル無線方式で送信。言葉の聞き取りが難しい環境でも、よりクリアな聞こえが実現のための送信機
	名前	ロジャーネックループ
	対象	聴覚障害・発達障害
	個数	2
	保管場所	支援オフィス
	備考	ワイヤレスマイクで拾った音声をデジタル無線方式で送信。言葉の聞き取りが難しい環境でも、よりクリアな聞こえが実現のための受信機
	名前	モバイルプリンター
	対象	身体障害・発達障害
	個数	1
	保管場所	支援オフィス
	備考	授業・テスト・実習等において、PC やタブレット等での入力したものを、 その場でプリントアウトできる。
	名前	ロジャーオン
	対象	聴覚障害・発達障害
	個数	1
	保管場所	支援オフィス
	備考	ワイヤレスマイクで拾った音声をデジタル無線方式で送信。言葉の聞き取りが難しい環境でも、よりクリアな聞こえが実現のための送信機
	名前	iPad
	対象	聴覚障害・発達障害
	個数	1
	保管場所	支援オフィス
	備考	s-office@ed.hyogo-dai.ac.jp

障がい学生支援オフィスに関する調査より 2022年1月実施

プラス評価: そう思う ややそう思う



全学生(ユニバーサルデザイン)

- ・学習効果が上がる
 - ・教育・福祉・看護・栄養・保育等の対人援助職としての実践力の向上
- 合理的配慮・ユニバーサルデザインが学内で身近に接する環境下で、人としての捉え方が柔軟になる。支援方法がわかる。

当該学生

- ・学習効果が上がる。
- ・自己理解が進み、卒業後の生活に幅ができる。
- ・支援経験を活用して、就職機会が増える。



合理的配慮

- ・各回での到達目標を明確にする
- ・一つのコンテンツの区切りを短く
- ・授業のルールを共有する
- ・代替手段を考えておく
- ・黒板・スライドが見つらいなら、あらかじめ教材を配布
- ・音声を入れるときは、オーバーアクションで、説明はゆっくりと丁寧に
- ・1回分の授業だと明確にわかるように、授業の資料をまとめる
- ・音声や文字(チャット、メールなど)で
- ・説明や指示は具体的にわかりやすく
- ・学生に意見を出させるには、論点や型を示す

- ・学生の負担に配慮を(印刷させすぎない、課題を出しすぎない)
- ・学生の不利益にならないように「学生第一」
- ・すべての学生が参加できるように